青山神明遺跡（あおやましんめい）・青山金剛遺跡（あおやまこんごう）（本発掘調査B）

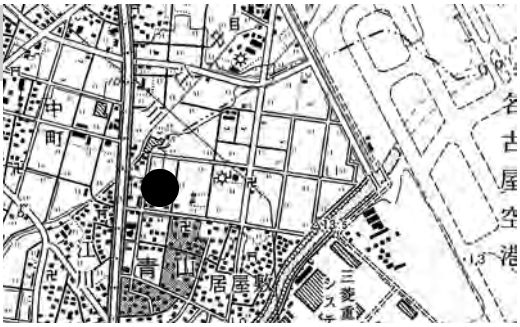
所　在　地　西春日井郡豊山町大字青山字金剛地内
（北緯35度15分38秒 東経136度54分31秒）

調査理由　愛知県基幹的広域防災拠点事業（代替地）

調査期間　令和6年9月～令和６年12月

調査面積　2,642㎡

担　当　者　鈴木正貴・酒井俊彦



調査地点（1/2.5万「小牧」）

調査の経過　調査は、愛知県防災安全局による愛知県基幹的広域防災拠点事業（代替地）に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和６年９月～12月まで発掘調査を実施した。青山金剛遺跡は豊山町給食センターの北西に位置しており、調査面積は655㎡で、A区とB区に区分した。青山神明遺跡は豊山町給食センターの西に位置しており、調査面積は1,987㎡で、M区とN区に区分した。

青山金剛遺跡　青山金剛遺跡は、西春日井郡豊山町北端部にあり、木曽川扇状地の扇端部にあたり小牧市から続く低位段丘上に立地する。北西に中江川が流れており、標高は約10mを測る。

調査の概要　調査の結果、奈良時代から平安時代の竪穴建物と鎌倉時代から室町時代の溝や掘立柱建物などの遺構が検出された。

奈良時代から平安時代の竪穴建物は全部で15棟あり、一辺が3.0mから4.5mの小型のものが多い。床面はほとんど残存していない状況であり、火処遺構は確認できなかった。土師器甕、須恵器、灰釉陶器の小片が出土した。鎌倉時代から室町時代の遺構としては、溝７条、竪穴状遺構４基、柱穴などがある。溝は12世紀から13世紀前半（0024SD）と13世紀から14世紀（0001SD～0003SD・0019SD）と15世紀代（0026SD）３期に区分される。竪穴状遺構は擂鉢状に中央が下がるもの（0686SI）があり、0929SIでは白色粘土塊が出土した。柱穴は夥しい数が確認されており、少なくとも20棟以上の掘立柱建物が存在したと推定される。なお、調査範囲内では井戸は確認されていない。

ま　と　め　青山金剛遺跡は、愛知県文化財マップによれば、青山神明遺跡とは別の遺跡として認識されているが、北東側の青山神明遺跡（調整池）の調査結果と合わせて考えると、古代・中世の集落遺跡としては関連するものと思われる。

（鈴木正貴）

A区１面遺構全体（北西から）

B区南西部竪穴建物群（北東から）

青山金剛遺跡２面遺構図（1:200）

青山金剛遺跡１面遺構図（1:200）

青山神明遺跡

２４Ｍ区

調査区は遺跡の南西部に位置する。調査区の西側は道路、南側は民家と 24H 区、北側は耕作地を挟んで青山金剛遺跡 24A・B 区が位置する。東側は 24N 区である。調査区の地形は東より続く微高地の高位部分で、南側は谷地形、西側もやや低い谷地形となる。北は青山金剛遺跡が立地する微高地である。

調査によって確認された遺構遺物は主に平安時代と中世の時期に属するものである。平安時代の遺構としては井戸 1 基と溝数条が確認された。井戸は調査区中央で検出され、径 1.1m、深さ 0.6m を測る。調査区基盤層の明黄褐色シルト層内で掘り込みは止まり、湧水層である砂層や礫層には達していない。出土遺物は灰釉陶器椀、土師器甕が出土している。溝は調査区南半で東西方向にやや湾曲して走る溝 4 条が確認され、灰釉陶器が少量出土している。同時代の遺物として調査区全体で少量の須恵器片が出土している。

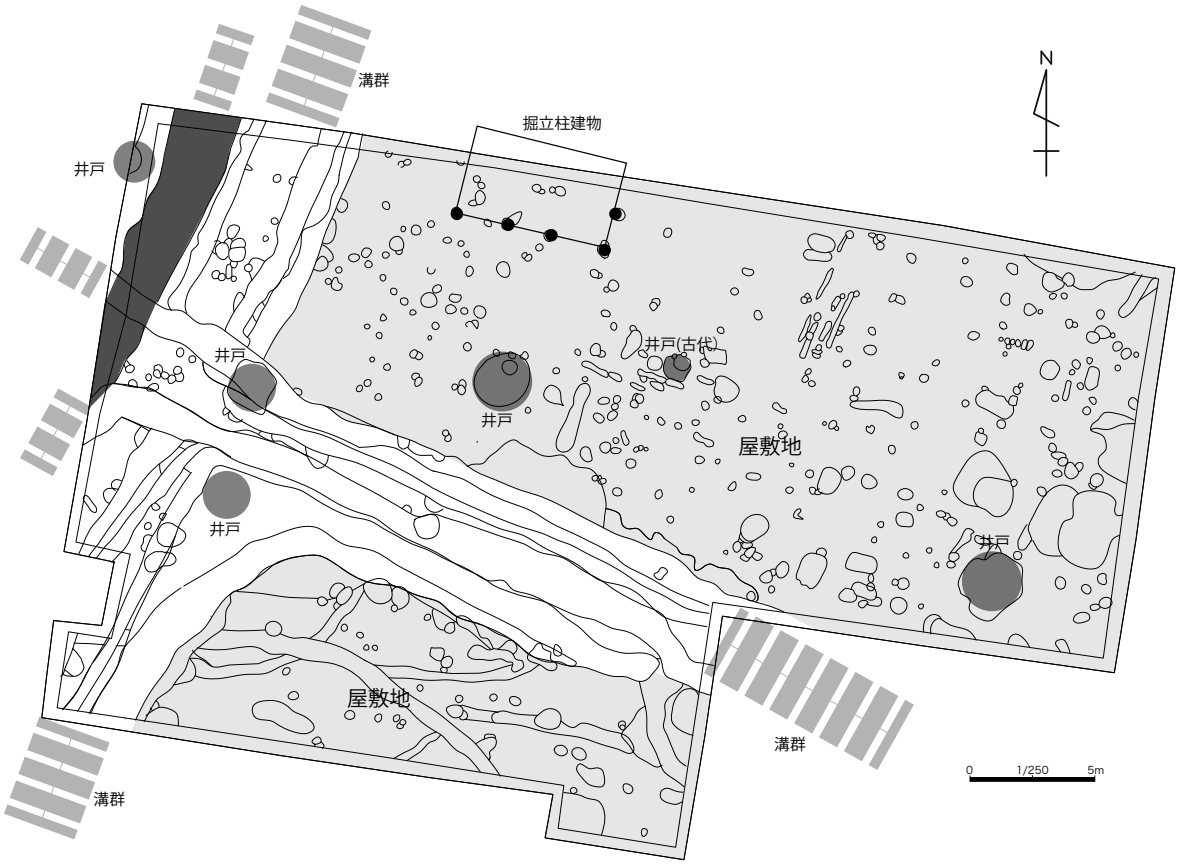
中世の遺構としては掘立柱建物の柱穴である小土坑が百基以上、溝十数条、井戸 5 基が確認された。調査区中央部にやや南東 - 北西に軸が傾く東西溝群が走り、調査区西部で南・北方向にほぼ直角に曲がる。東西溝は消失したものも含めて 7 条である。南北方向の溝は北方向に 3 条､南方向には 5 条が走る。これらは 15 世紀代の時期である。また、調査区北西隅で南北方向の溝群に並行して幅約 2.5m、深さ 0.6m の箱堀状の溝が確認されている。溝群より古く、北に位置する金剛遺跡に関連する遺構である。中央東西に走り南と北に屈曲する溝群は中世屋敷地を区画するものであり、北と南に二区画が想定される。柱穴と考えられる小土坑が多数検出され掘立柱建物 1 棟が確認された。井戸は 5 基が検出された。1 基は南部系山茶碗 5 型式の時期で、溝群と切り合い関係がある 2 基は溝群よりやや古い時期である。このうち 1 基は平面が方形の形状である。調査区東部で検出された井戸は上部を傾斜させてロート状に掘る。中心部に径 0.6 ～ 0.7m の竪穴を礫層下の砂層まで掘り下げ、深さは 2.2m を測る。これ以外の中世井戸は調査区基盤面下の礫層上部の硬い砂層まで達している。溝群から 15 世紀代の山茶碗、古瀬戸陶器、石製品、鉄滓が出土している。

２４Ｎ区

調査区は 24M 区の東側に位置し、南側は 24H 区、東側は 24D 区となる。調査区南東は谷地形となり、北から西方向は調査区よりやや高い微高地である。調査区は谷地形以外の微高地が圃場整備によって数十 cm 削平され、深い部分で M 区に比較して基盤面が約 50cm 下がる。このため微高地部分の遺構は少なく、井戸などの比較的深い掘り込みの遺構が遺存する。

確認された遺構遺物は平安時代と中世である。平安時代の遺構としては井戸 2 基が確認され､灰釉陶器､土師器などが出土した。中世の遺構として主に溝と井戸が検出された。調査区南西隅で 24M 区の連なる可能性がある溝 2 条が確認された。溝は北西方向から南に屈曲して 24H 区に繋がる。井戸は 7 基検出され、時期的には中世初期と 15 世紀代の２時期が確認された。中世初期の井戸より第 5 型式の山茶碗、15 世紀代の井戸からは埋置された古瀬戸陶器が出土した。平安時代と中世の井戸は南東の谷地形に沿う微高地縁辺で検出された。

(酒井俊彦)



青山神明遺跡 24M 区遺構図 (1/250)

24M 区調査区全景（真上）

24N 区全景（西より）

24N 区古代井戸 0550SE 遺物出土状況

24N 区中世井戸 0561SE 遺物出土状況